

国際演劇交流セミナー2014 インド特集

【ダイジェスト版】

カタックダンスと古典インド芸術を旅

古典的インドダンス、とりわけカタックダンスを取り上げて紹介した5日間のワークショップ。起源・根元、世界の多様なダンス形式との繋がり、カタックダンス特有の「感情的要素」、重要な役割を担う「歌」について、様々な表現のために眼や顔をどのように使うかなど、実践とレクチャーを交え幅広く学ぶ機会となった。更に古典的ダンスにとって重要な他の要素、コスチュームやメイクなどについてのレクチャーも行われた。シンポジウムではアジア・ミーツ・アジアの協力のもと、アジア各国の演劇人が一堂に会し議論が行われた。

【in 東京】会場：プロトシアター 2014年9月4日（木）～ 9月9日（火）

○ 講師 アルチャナ・クマール



● シンポジウム 「 アジア演劇の希望と抵抗 」 9月9日(火)18:30 - 21:30

● ワークショップ 「 カタックダンスを通じて、インドの古典音楽とダンスを学ぶ 」

9月4日(木) - 8日(月)19:00 - 21:30

※最終日は発表会

○ 講師プロフィール

アルチャナ・クマール / Archana Kumar



南インドの古典舞踊バラタナティヤムのトレーニングを9年間受け、その後、北インド古典舞踊であるカタックダンスを学び、パフォーマーとして、また、プロモーション活動および指導を行うことで現在まで続けている。10年に渡る在米期間中には、モダンダンスのテクニクおよびインプロビゼーションの確固たる基盤を造り上げた。また、複数のダンスカンパニーとコラボレーションを行い、米国各地で公演を行った。マナサロヴァル・カタックダンス学校を開校。2005年には、日本の舞踏に関心を持ち、現在まで実践・研究している。彼女の作品は、中国、日本、中東、カナダと国際的に上演されているが、すべて、現実の人生経験に由来しており、動きのボキャブラリーのために、モダンダンスの身体性を用いて舞踏の哲学とインドの伝統舞踊のモチーフをシームレスに融合することに努めている。

2005年よりアジア・ミーツ・アジアの身体的作業に共鳴し共同創作活動を継続。

2012年より本拠地 バンガロールでのアジア・ミーツ・アジアの活動を開始している。

●ワークショップ

「カタックダンスを通じて、インドの古典音楽とダンスを学ぶ」9月4日（木）～9月8日（月）19:00～21:30※最終日は発表会

通訳：高井彩加



○アルチャナはじめまして。私の名前はアルチャナです。カタックダンスは北インドから来た踊りです。インドにおいて二つの文化が溶け合った唯一の古典ダンスとなります。イスラムとヒन्दゥーの文化です。このワークショップでシェアしたいのは、カタックダンスのテクニックです。はじめにアビラナと呼ばれる表現の部分を紹介し、ナマスカールというあいさつの仕方から始めていきます。ナマスカールをやったあとに、リズム、ターニング（旋回）を行っていきます。ペルシャやトルコ、インドの北の方から影響を受けています。

・カタックダンス

○アルチャナカタックには、物語るという意味があります。そのため、物語を語って歌って踊ってということと同時にやっていました。その後、インドをペルシャ人が征服したときに、もっとリズムカルな側面がでてきました。そこで楽しむことを強調してきました。今は、歌う人と踊る人がわかれています、このワークショップでは両方をやってみたいと思います。北インド舞踊に使われる歌も教えたいと思っています。

今日は、前半はダンス。後半は歌をメインにやっていきます。今日、鈴が二組ほどあります。もし鈴をお持ちの方がいましたら、明日から持ってきてください。

○参加者持ってきていますが、ちょっと音がうるさいかもしれない。

○アルチャナ結構ですよ。もちろんつけてみてください。

・たくさんの鈴が紐で結びつけられたものを足首に結んでつける。

○アルチャナカタックにはふたつ楽器があります。打楽器のタムラとパカワジ、それとハーモニウム、弦楽器はシタールなどを使います。そして、異なるメロディーを奏でることができます。

メロディー＝ラーガをやってみますね。ラーガには名前がありますが、パターンを学んでみましょう。ティンタール。16カウントです。



- ・ 16カウント数え、手を動かす。

○アルチャナ次は、ルックファールタール。7カウント。

- ・ 7カウント数え、手を動かす。

○アルチャナティンタールに集中していきます。

9カウント目は何もないカウントになるので、左手を開いている状態になります。

- ・ 繰り返す。

○アルチャナハーモニウムでやってみましょう。

- ・ ハーモニウムから音を出しながら、動く。

○アルチャナ手を下に向けて腰あたりに置く。おなかからこぶし一つ分前に。浮き輪のように。

肘は上がっています。これをサマンと言います。

フラメンコのようなですね、フラメンコはインドから来たジプシーに影響を受けていると言われています。

- ・ ハーモニウムから音を出す。

○アルチャナ手を前にして組んで、そこを眼で見つめる。指先が自分のほうに向いている状態。肘を少し開き目で。親指を少し入れる。

カタックは太陽系のシステムにのっっているので、旋回は左回りです。

私が鏡になりますので、右足右腕から始めてください。

- ・ 繰り返す。



○アルチャナでは次の動きをしてみましょう。右手が上で左を握る。腰の部分を安定させて、上半身と下半身が離れたように動きます。手拍子と足拍子でうら拍子を取り、足でリズムをとる。裏拍で足、リズムは手拍子。次は、左右2拍ずつに切り替える。アルチャナとともに動きながら、アルチャナが説明と動きを加えていく。

○アルチャナ6ビートでやってみましょう。

・6ビートで行う。

○アルチャナ下半身の動きを集中的にやったので、ゆったりとした上半身の動きをやりましょう。声を出しながら、動きを維持しましょう。

ナン、リン、ディン、ナン

ナン、リン、ディン、ナン

ナン、リン、ディン、ナン

ティッタ（×13）、リン、ディン、ナン

○アルチャナおなかから声を出してください。カタックは即興的なので、どういう風に声を出すのが重要です。そしてリズムは手拍子でキープしていきます。ヨガのように瞑想的に行きたいと思います。手首から始まって開いていきます。すべての指はまっすぐにします。

・ゆっくり手を上げて開いていく。

○アルチャナゆっくりと声を出しながら、動かしていきましょう。足は二倍速で。手とスピードが違いますよ。

ナン、リン、ディン、ナン

ナン、リン、ディン、ナン

ナン、リン、ディン、ナン

ティッタ（×13）、リン、ディン、ナン

○アルチャナいつも右足から始めてください。

○アルチャナ裏拍と表拍について説明します。

表拍で足、裏拍で手拍子×8カウントします。表拍で手拍子、裏拍で足拍子×8カウント

・足拍子と手拍子を取り、徐々にリズムの速度を早める。

○アルチャナ円になってください。

・ハーモニウムの音を変える。

○アルチャナ同じ音程を保ちます。女性の場合はラカラのシャープを歌ってください。柔らかく歌っていきます。8音符の歌になります。

Sa Re Ga Ma Pa Da Ni Sa
サ レ ガ マ パ ダ ニ サ

サンスクリット語で、サというのはシャドジャと言います。それぞれの音が名前を持っています。

レはリシャバ、ガはガンダーラ、マはマディヤマ、ダはダイヴァタ、ニはニシャーダといった感じです。中心となる音から始めます。

・音程をさまざまに奏でる。そして、歌を歌いながら、指を動かしていく。

サ、ガ、レ、マ、ガ、ファ、マ、タ、マ、ニ、ら、サ、サ、ファ。

シャープとフラットを混ぜた音階を歌ってみます。

・いくつかの音階を試す。

○アルチャナパーニカレーチェニカーリー。この意味は、「鈴よ、音をつくってくれ」というものです。
ラーガ「Puriya Dhanishree」をやってみましょう。

・ラーガを体験する。

○アルチャナそれでは、今日はここで終わりにしましょう。 また明日。



記録・川口典成、佐々木治己